

逍遙園

逍遙園の起源は十七世紀中頃にまでさかのぼります。当時の輪王寺の最高位の僧侶であった輪王寺の官守澄法親王（西暦 1634-1680）の個人的な庭として造園されたのが、この逍遙園です。皇子が幼少期の大半を過ごした京都に近い琵琶湖畔の環境をイメージし、逍遙園は設計されました。逍遙園は造営以来、その美しさから、何世紀もの間にわたり多くの評判を得、多くの著名人がここを訪れました。（例えば）1817 年には米国 18 代大統領のユリシーズ・シンプソン・グラントも逍遙園を訪れています。今日逍遙園は、秋にもみじが色づくころ、特に美しくなります。

逍遙園は、日光の自然環境を用いて設計されています。（遠くに見える）男体山の景色が、庭内の整った風景に溶け込み、その上、庭じゅうに置かれた石は全部日光の山と川から集められたもの。逍遙園は、“日光の自然を一度に経験できる庭”と言われています。